

路上再生路盤工 特記仕様書

- 1, この特記仕様書は下記の工事に適用する。
事業名：防災・安全交付金事業 県・東中線舗装修繕工事
箇所名：東御市 県
- 2, 本仕様書に規定されない諸規定については、舗装再生便覧の規定による。
- 3, 路上再生路盤工法は、路上再生セメント、アスファルト乳剤安定処理工とし、路上において路上再生路盤用添加剤と路上再生路盤用骨材と共に混合し、締め固めて安定処理した路盤を新たに構築するものである。
- 4, 路上再生路盤用添加剤は、セメント系テフロン処理防塵固化材(以下「セメント系固化材」という)及びセメント混合用アスファルト乳剤を使用するものとする。
- 5, 安定処理厚 14cmの場合、添加剤の添加量100㎡当りセメント固化材= 749kg、セメント混合用アスファルト乳剤=1514kgを標準とするが、施工前に路上再生路盤用骨材を採取し、配合設計を実施して、アスファルト乳剤の添加量及び下記に示すCAE一軸圧縮試験の基準を満足するセメント量を決定し監督員の承認を得るものとする。
- 6, 配合設計の段階で溶出試験を実施すること。(環境庁告示46号溶出試験)
- 7, 上記溶出試験において、土壤環境基準(0.05mg/ℓ)を超えなかった場合は、施工後に実施する溶出試験を必要としない。
- 8, 火山灰質粘性土を改良する場合には、上記6, 及び7, の通りでない。
- 9, 算出式及び基準は下記の通りとする。

路上再生路盤工 設計路盤厚 $t = 0.14 \text{ m}$

◆ 添加セメント量算出式(100㎡当り)

$$\begin{aligned}
 & \text{面積} \times \text{設計厚} \times \text{設計密度} \times \text{設計セメント量} \times \text{ロス率} = 100\text{㎡当り使用量} \\
 & 100 \text{ m}^2 \times 0.14 \text{ m} \times 2.1 \text{ t/m}^3 \times 2.5\% \times 1.02 = 0.74970 \text{ t/m}^2 \\
 & \hspace{15em} \text{1kg当換算} \hspace{15em} \text{セメント添加剤数量} \\
 & \hspace{15em} 0.749 \times 1000 = 749 \text{ kg/m}^2
 \end{aligned}$$

◆ 混合用乳剤量算出式(100㎡当り)

$$\begin{aligned}
 & \text{面積} \times \text{設計厚} \times \text{設計密度} \times \text{設計乳剤量} \times \text{ロス率} = 100\text{㎡当り使用量} \\
 & 100 \text{ m}^2 \times 0.14 \text{ m} \times 2.1 \text{ t/m}^3 \times 5.0\% \times 1.03 = 1.51410 \text{ t/m}^2 \\
 & \hspace{15em} \text{1L当換算} \\
 & \hspace{15em} 1.514 \times 1000 = 1,514 \text{ L/m}^2 \text{ ※「ℓ」換算}
 \end{aligned}$$

CAE一軸圧縮試験の基準値

特性値	基準値
一軸圧縮強さ σ_m (Mpa)	1.5～2.9
一次変位量 δ_l (1/100cm)	5～30
残留強度率 σ_r (%)	65以上

セメント混合用アスファルト乳剤(MN-1)の規格

項目	セメント混合用アスファルト乳剤(MN-1)
エングラー度(25℃)	2～30
ふるい残留分(1.18mm)%	0.3以下
セメント混合性 %	1以下
蒸留残留分 %	57以上
蒸留残留物 針入度(25℃)	60～300
蒸留残留物 トルエン可溶分 %	97以上
貯蔵安定度(24時間) %	1以下